令和元年　決算特別委員会５日目【土木費】

↓↓↓質疑応答↓↓↓

【松澤質問】

私からは、３０３ページ、無電柱化基本方針策定委託、３３３ページ、消防団運営費、３３７ページ、避難所管理費について、順不同で質問させていただきます。  
　まずは避難所管理費から避難所のあり方、プライバシー問題、ペット問題についてお伺いいたします。内閣府によりますと、大震災の１週間後には３８万人以上の方が避難所生活を送り、熊本地震でも最大１８万人以上の方が避難所生活を行い、車中泊も多かったとあります。復興庁によりますと、大震災の約１年後の関連死の方を分析した結果、避難所生活での精神的・肉体的疲労が５１％と半分を超えていました。そこでお聞きいたします。まずは、避難所に対する品川区のご見解をお聞かせください。

【中島防災課長答弁】

避難所に関するお尋ねでございます。避難所に関しまして、今、災害関連死の例もございましたが、区としましては、やはりまず直接的な生命を守るというところも、十分、重要視して取り組んでおります。そのうち、避難をされた方につきましては、やはり避難所で震災からの、復興・復旧の過程も含めまして、きちんと避難生活が過ごせるように、避難所の環境について改善をしているところでございます。備蓄やトイレなど、もろもろ総合的に取り組んでいるところでございます。

【松澤質問】

備蓄という観点、承知しました。そこで、学校施設、体育館、小学校などになると思うのですけれども、避難所は学校施設で、教育委員会の管理施設かと思いますが、教育関連の事業が優先となるために、災害対策関連の事業が進まないなどの記載も見つけました。品川区ではどのようになっているでしょうか。

【中島防災課長答弁】

区といたしましては、避難所というものには、やはり一定の建物の広さや屋外の広さを有しているというところで、学校を中心的な避難所として整備を進めてまいりました。現状でも、それがやはり一番効果的かと考えて、学校避難所を中心に進めているところでございます。なので、そういう意味で、学校の活用について、より一層進めてまいりたいと思っております。

【松澤質問】

ということは、別に、教育委員会の管理施設だから災害対策が進まないといったことはないということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。  
　東京都もそうですけれども、品川区には避難所運営マニュアルがありますけれども、どのような内容で、進み具合といいますか、そういうものはいかがなものなのでしょうか。

【中島防災課長答弁】

避難所運営マニュアルにつきましては、地域の方々が自主的に避難所運営をしていただくのに資するようなものとなっております。これまで自主性ということで、避難所によってレベル感にもさまざま差がありましたが、昨年度、それを一定程度高めるような支援を行いまして、現状、ペットや女性への配慮など、さまざま課題はありますが、そのようなところについてレベルアップを図っているところでございます。今後もそのような取り組みは進めてまいりたいと思っております。

【松澤質問】

そうしますと、避難所運営マニュアルというのは統一ではなく、やはり地区ごとにマニュアルというものを考えられているといったものなのでしょうか。

【中島防災課長答弁】

避難所運営マニュアルは、区民避難所の設備の状況や収容人数等にもよりますが、やはり地域によって多少は差があるものでございます。それが統一的になるように共通化を図ったものを、標準マニュアルとして示させていただいているところでございます。

【松澤質問】

内閣府の避難所に関する調査報告書を拝見しました。避難所の運営で重要なのが共助になります。運営は、被災者である私たちが自分たちで管理します。要は自分たちで守らなければならない。現状、地域の意識は低く、相互理解が得られていないように思いますが、品川区との連携ということも含めて、お考えがありましたら教えてください。

【中島防災課長答弁】

避難所につきましては、やはり地域の方々が共助の中で、あるいはその前段の家庭での備え、自助という観点も含めまして、自助・共助をベースとして考えております。そういう意味で、やはり訓練、区内一斉防災訓練でありますとか避難所訓練、そういう機会を捉えまして、相互理解が深まるような訓練を通じて、相互理解を深めるようなところを、区としても支援してまいりたいと思っております。

【松澤質問】

私も先日、荏原第五地区の総合防災訓練に参加させていただきました。そういった総合防災訓練は、荏原第五地区ですと、ＪＴの社宅跡地ですか、しながわ中央公園となりましたけれども、そういうものを、一気にやるのは難しいと思いますが、個々の避難所で、そういった大規模な訓練というものを、区と連携してやるということは可能なのでしょうか。

【中島防災課長答弁】

１カ所で大規模というのは難しいですが、やはり時期を統一してやるのが本当の訓練に近いということで、時期を合わせた区内一斉防災訓練というものをやっているところでございます。なので、周辺地域との関係などというところも、そういうところで生まれると思いますので、そういう形で進めてまいりたいと思っております。

【松澤質問】

次にペット対策です。避難所に入れず、車内での生活の結果、エコノミー症候群にかかる方も大変多いとお聞きします。昨年度の議事録の中で、品川区では環境省のガイドラインに沿って同行避難するとあります。まだまだ同行避難できる避難所は少数であります。ペット対策についてのお考えが１点。  
　あと、トイレ問題です。これが非常に深刻とお聞きしております。仮設トイレがすぐに設置されない。早くても３日以内の設置が３４％ぐらいと出ておりました。多くが１週間以上かかってしまう。水分を控えると脱水になり、エコノミー症候群を発症するというリスクが危惧されております。品川区では、災害時に仮設トイレの設置などは、どういったマニュアルになっているのでしょうか。

【中島防災課長答弁】

まずペット対策の考え方でございます。かねてから、ペットについては避難所連絡会議等で議論をしてきたところでございます。さまざま課題は残っているところでございますが、基本的に今、ペットの同行ということを避難所マニュアルの標準版にも書かせていただいておりますし、しながわ防災学校などで、ペットの避難についての研修も行っております。そのような形で、区としましても、ペットの同行について啓発を行っておりまして、少しずつではありますが、同行訓練も行ってみようかという避難所も出てきておりますので、そういう流れで進めてまいりたいと思っております。  
　また、仮設トイレについてですが、組み立て式のトイレは、避難所運営訓練等で、地域の方々にも実際、訓練をしていただいているところでございます。そのほか、そもそも今までのトイレが使えれば一番いいので、下水道の耐震化というのも、これまで都と連携しまして進めており、また、仮設の便袋みたいなものも、１避難所５,０００枚ぐらい設けておりますので、さまざまな観点からトイレ対策は進めているところでございます。

【松澤質問】

よい取り組みの例で、避難所にソーラー電灯を設置する。畳屋と協力・提携して、災害時に避難所に畳を届ける。これは５日で５,０００枚の約束ということでした。またＮＰＯとの連携による紙の簡易間仕切りシステムの活用。これは一度、品川区で拝見させていただきました。このようなよい事例がある中、品川区では、このような取り組みと連携するというお考えはありますでしょうか。

【中島防災課長答弁】

委員からご紹介がございました畳あるいは紙の簡易間仕切りシステムについてですが、品川区でも協定は締結しているところでございます。本来であれば、区でも備蓄ができればいいとは思いますが、食糧などの関係で、備蓄スペースが今でもなかなか難しい、不足しているような状況でございまして、今、やむを得ず協定という形でやらせていただいております。畳や間仕切り、段ボールベッドみたいなものは協定先から送られるような形で、協定を締結してございます。

【松澤質問】

先日のお話でも、戸越公園に環境館なるものが建つというお話がありました。そういった施設にも避難ができるよう望みまして、この質問を終わらせていただきます。  
　次に消防団運営費です。消防団のＯＢ会を通称、団友会と申します。昨年度の課長の答弁の中に、年末警戒、町会・自治会の訓練、各中学校のポンプ指導などの発言がありました。私の知る範囲では、あまり参加がないように感じますが、団友会へのお願いといったものは品川区からの要請でやるのか、それとも東京都からの要請なのでしょうか。

【大森災害対策担当課長答弁】

団友会の活動についてのご質問でございます。団友会につきましては、品川、大井、荏原と、消防団ＯＢを中心として３団体が結成されており、主に総合防災訓練ですとか水防訓練、団操法大会の指導などで、現職の消防団員指導の活動に当たっていただいていると。区といたしましても、このように認識しているところでございます。

【松澤質問】

消防団の活動の場が、現在、非常に増えております。平日に呼ばれることも大変多く、消防団の中には会社員の方が大変多いので、なかなか平日に集まることが不可能に近いということがあります。団友会の方をしっかりと防災対策の一組織と考えていただいて、地域の防災リーダーとして確立していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【大森災害対策担当課長答弁】

先ほどのご質問について１点だけ補足させていただきたいと思います。団友会の活動につきましては、現職の消防団の要請に基づいて消防団の活動を支援していると理解しておりまして、そういった意味では、委員のご質問がありました、東京都あるいは区のどちらからというところにつきましては、東京都という位置づけになるのかと考えているところでございます。  
　地域での位置づけに関するご提案でございますけれども、まさに消防団につきましては、現在、品川区消防団運営委員会で、消防団の定年延長の問題や、消防団ＯＢを機能別の分団というような形に位置づけまして活用するといった視点で、議論を重ねているところでございます。区といたしましては、そういった議論の結果等を踏まえまして、消防署と連携しながら考えてまいりたいと考えております。

【松澤質問】

次の質問になります。無電柱化基本方針についてです。今、少しずつ改善しつつある無電柱化は、ロンドン、パリなどは既に１００％ということになっております。東京２３区では８％なので日本の無電柱化率が低いことがわかります。大きな災害が起こる昨今、災害を大きくしないまちづくりが急がれております。そこでお聞きいたします。品川区における無電柱化の計画は、現在はどのように進んでいるでしょうか。

【多並道路課長答弁】

無電柱化推進計画につきましては、現在、これから１０年間に整備する無電柱化の計画について検討しているところでございます。この計画につきましては、防災性、景観、交通安全などを基本方針として、優先すべき路線というものを選定して計画を立てるというもので、今後につきましては、１月には素案をつくって、その後、速やかに計画をまとめるということで、より無電柱化を推進するための計画を策定していきたいと、進めているところでございます。